

# 「第二十二回全国女性消防操法大会」に向けて

南あわじ市消防団 なでしこ分団



発行所  
公益財団法人兵庫県消防協会  
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号  
編集発行人 岸 谷 義 雄  
題字 井 戸 知 事

無事故へと  
気持ち集中  
はつけよい



南あわじ市消防団なでしこ分団の皆さん

私たち南あわじ市消防団なでしこ分団は、平成一九年二月に発足しました。これまで、女性消防団としての特色を生かし、救命講習や防火・防災指導を中心に活動してきました。団員の入団動機は多くは、男性団員が地域を守るために活発に活動しているのを見て、自分たちも「何かできることがあるのでは？」という気持ちで集まりました。団員の年齢は、二〇代から六〇代まで幅広く、世代をこえた仲間たちとの活動を通して、一人ではなかなかできないことでも、仲間と一緒になら有意義な活動ができるというのを感じています。

今回、全国大会に出場させていただくことになり、軽可搬ポンプ操法の練習を昨年より本格的に始めました。それまでは、市の操法大会等で男性団員のきびきびとした演技を目にし、自分たちも出来るのであればやってみようという思いは持っていました。しかし、いざ練習を始めてみると、敬礼ひとつをとってもきちんできていないことに気づき愕然としました。



放水！

そんな状況でスタートした私たちに、消防団幹部の方々や広域消防の方々など、多くの人達が私たちのためにお力を貸してくださることにになりました。みなさん、お仕事や消防団活動等で大変お忙しいにもかかわらず、練習に足を運んでくださいました。敬礼から始まり、足の運び方から手の動きと、何度やっても上手くできない私たちに、繰り返し一つ一つ丁寧に教えていただいています。

操法を始めて間もない私たちが、いきなり全国大会に出場するというのに、とても大きなプレッシャーを感じています。また、日々の練習では、上手くできない自分達に腹が立ち、気持ちばかりがあせって空回りする日もあります。しかし、大きな目標に向かって、仲間や協力してくださっている方々と、一生懸命練習に取り組

り組み、泣いたり笑ったりしながら一致団結して頑張れることは、私たちにとって大変すばらしい経験になっていきます。



大会へ出場するまでの日々の中で、多くの方から温かい励ましやご支援をたくさんいただきました。地域での関係が希薄になりつつあるとよく言われていますが、私たちの地域には人と人のつながりが、今でもしっかりと残っているというのを改めて感じ、南あわじ市消防団の一員として活動できることを大変誇りに思いました。

全国大会で、どこまで練習の成果を発揮できるか、また、精一杯やっただとしても結果を残せるかどうか分りませんが、支援していただいた多くの方々や、応援してくれている家族、そして共に支えあっている仲間のために、自分たちの力を思いっきり出して頑張って競技してきたいと思えます。



# 平成二七年度 合同防災訓練実施!

## 約一五〇機関 三、八〇〇名が参加

県では毎年、防災週間にあわせて地域の市町と共催した合同防災訓練を実施しています。今年も、平成二七年八月三〇日(日)、三木総合防災公園をメイン会場とし、兵庫県及び東播磨・北播磨地域の八市三町(明石市、加古川市、高砂市、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、稲美町、播磨町、多可町)の主催により実施しました。

ライン施設に甚大な被害を受けて、山間部では土砂崩落により集落が孤立、多数の負傷者が発生しているという状況を想定して各会場で訓練が行われました。

なお、各会場での訓練内容は次のとおりです。

### 【訓練内容】

#### ①メイン会場 (三木総合防災公園)

〈本部運営等〉  
対策本部事務局設置・運営訓練／先遣隊調査訓練  
／連絡調整TV会議訓練  
／部隊集結・進出訓練  
〈救出・救助〉  
倒壊家屋・倒壊ビル・土

#### ②東播磨・北播磨各市町会場 (本部運営)

砂崩落・列車事故・高層建物からの救出訓練  
〈救急医療〉  
応急救護所・SCUの開設・運営訓練／負傷者搬送訓練  
〈交通対策〉  
道路啓開訓練／放置車両撤去訓練／交通規制訓練等  
〈救援物資搬送〉  
陸路・空路による物資搬送訓練／物資受入訓練  
〈被災者支援〉  
外国人を対象とした避難所設置・運営訓練等  
災害対策本部設置・運営



救出訓練 (小野市)



知事・防災監視視察 (三木総合防災公園)

訓練／現地指揮所設置・運営訓練／先遣隊調査訓練  
〈初期対応〉  
住民による消火・救出・応急手当訓練  
〈救出・救助〉  
消火訓練／倒壊家屋からの救出訓練等  
〈救急医療〉  
応急救護所開設・運営訓練／空路での負傷者搬送訓練  
〈救援物資搬送〉  
陸路・空路・海路による救援物資搬送訓練／物資受入訓練／給水車による応急給水訓練  
〈被災者支援〉  
避難所及び福祉避難所の設置・運営訓練／ボランティアセンター設置・運営訓練  
〈防災講習〉  
図上訓練



ロープの結び方訓練 (小野市)



住民による消火訓練 (小野市)



土砂崩落からの救出訓練 (三木総合防災公園)



列車事故からの救出訓練 (三木総合防災公園)



# 「第20回防災まちづくり大賞」の募集について

## 消防庁

### 「防災まちづくり大賞」の趣旨

阪神・淡路大震災や未曾有の大災害となった東日本大震災等、近年の大規模な災害の教訓を踏まえて、全国各地で防災対策の強化を図るための取組が行われていますが、防災力の向上を図るためには、防災につながる優れた事業を実施することはもちろんのこと、まちづくりや住民生活等においても防災の視点を盛り込むことが重要です。

「防災まちづくり大賞」は、地方公共団体、自主防災組織、事業所、教育機関、まちづくり協議会等における防災に関する優れた取組、工夫・アイデア等、防災や住宅防火に関する幅広い視点からの効果的な取組等を表彰し、広く全国に紹介することにより、地域における災害に強い安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的としています。

### 応募方法

「防災まちづくり大賞」をより多くの方々に知っていただき、優れた取組の掘り起こしを図るため、都道府県の推薦による応募のほか、自薦による応募を受け付けます。各地域で結成されている自主防災組織等、小・中学校等の教育機関をはじめ、様々な組織・団体からの応募をお待ちしております。

なお、応募手続については、募集要項等（URL：<http://www.fdma.go.jp/info/2015/20150907-1.pdf>）を参照してください。

### スケジュール

募 集 締 切：平成27年10月13日

表彰事例決定：平成27年12月上旬（予定）

表 彰 式：平成28年3月上旬（予定）

### 【お問合せ】

（防災まちづくり大賞全般に関すること）

消防庁国民保護・防災部地域防災室住民防災係

TEL：03-5253-7561

FAX：03-5253-7535

（住宅防火に関すること）

消防庁予防課予防係

TEL：03-5253-7523

FAX：03-5253-7533



防災まちづくり大賞

防災まちづくり大賞  
シンボルマーク



**防災品**

**住宅用消火器**

いざという時に備えて住宅用防災機器等（住宅用火災警報器・住宅用消火器・エアゾール式簡易消火具・防災品など）を身近に備えましょう。

**敬老の日に「火の用心」の贈り物**

**住宅用火災警報器**

すべての住宅に設置が必要な住宅用火災警報器。電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないよう、定期的な作動確認することが大切です。

最近の  
防火・防災  
プロジェクト

**消防庁**

キャンペーンポスター

全国の住宅火災による死者は千人前後の高い基準で推移しており、その約七割が六五歳以上の高齢者となっております。高齢社会の進展に伴い、住宅火災による死者数のうち高齢者の占める割合のさらなる増加が懸念されているとされています。

高齢者を中心とした住宅火災による死傷者数を減少させ

るためには、火災を早く知ること、火を早く消すこと、火を拡大させないことが大切です。

そこで、消防庁は、高齢者を住宅火災から守るため、九月一七日の敬老の日に、住宅用火災機器を高齢者に贈ることを呼びかける「住宅防火・防災キャンペーン」を実施しています。

この機会に、いざという時に備えて、身近な高齢者に住宅用火災警報器や住宅用消火器、防災品などの住宅用防災機器等をプレゼントされてみてはいかがでしょうか？

実施期間 平成二七年九月一日（火）～九月二一日（月）



「住宅防火・防災キャンペーン」の実施  
敬老の日に火の用心の贈り物



# 竜巻から身を守るために

平成27年9月4日、南あわじ市で竜巻とみられる突風が発生しました。幸い、人的被害はなかったものの、住家の屋根瓦がめくれるなどの被害が発生しました。竜巻は日本のどこでも発生し、特に台風シーズンの9月に最も多く確認されています。

竜巻には次のような特徴があります。

- ・竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きである
- ・ろうと状や柱状の雲を伴っている
- ・台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生する
- ・短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらす（被害は、長さ数km、幅数十～数百mの狭い範囲に集中する）
- ・移動スピードが非常に速い場合がある（過去に発生した竜巻の中には、時速約90km（秒速25m）で移動したものもある）

気象庁では「竜巻注意情報」等で竜巻への注意を呼びかけていますが、現在の観測・予測技術では、竜巻等激しい突風の発生を事前に予測できない場合もあります。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保の行動をとってください。

発達した積乱雲の近づく兆しとは、

- ・真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- ・雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする
- ・ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- ・大粒の雨や「ひょう」が降り出す

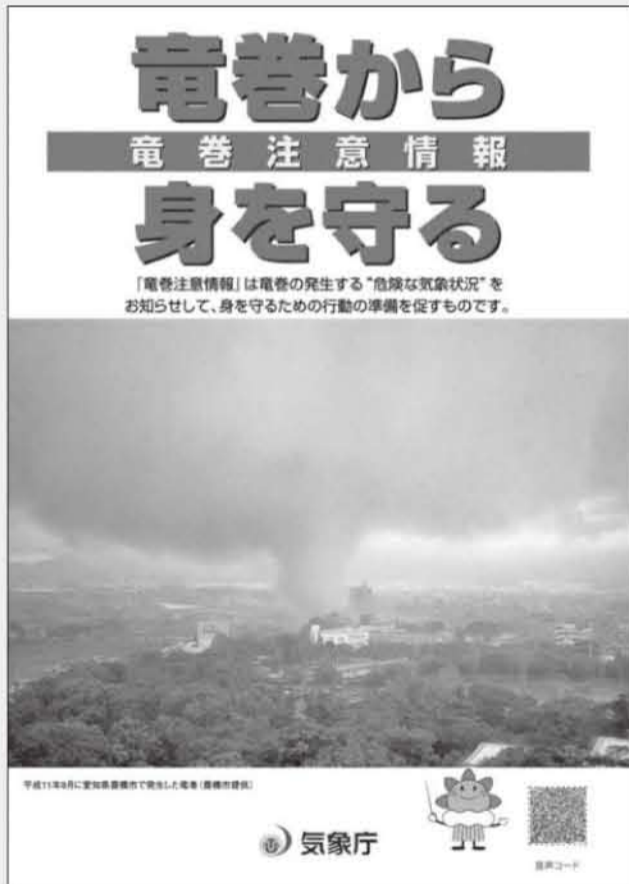
などであり、このような状況になると、竜巻の発生するような発達した積乱雲が、あなたの間近まで近づいている可能性があります。

竜巻が身近にせまったら、すぐに身を守るための行動をとってください。

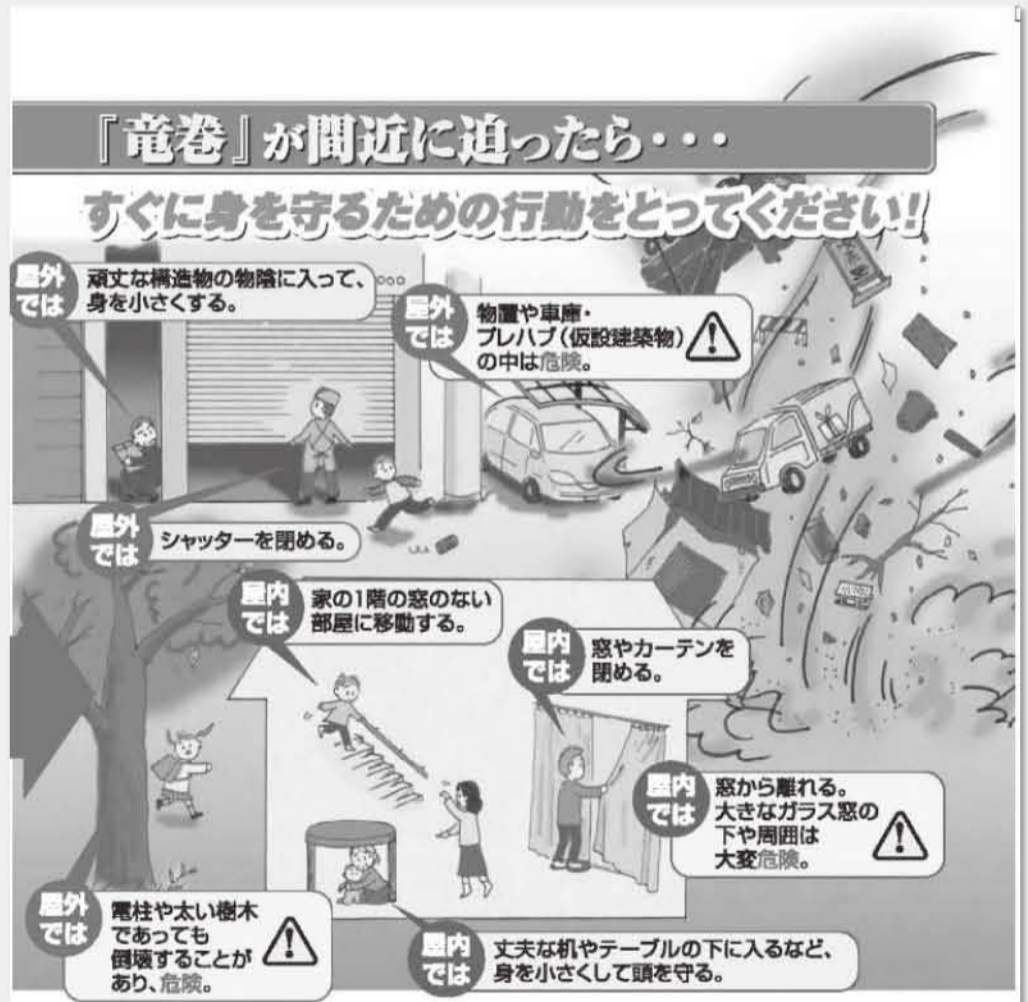
【屋外】頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする・シャッターを閉める・物置や車庫、プレハブ（仮設建造物）の中は危険・電柱や太い樹木であっても倒壊することがあり危険

【屋内】家の一階の窓のない部屋に移動する・窓やカーテンを閉め、窓から離れる・丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る・大きなガラス窓の下や周囲は大変危険

気象庁のホームページでは竜巻等についての、映像やリーフレットが掲載されていますのでぜひご覧ください。



リーフレット表紙



竜巻から身を守るための行動

気象庁ホームページ  
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>





# 第一八回北播消防ソフトボール大会開催

## 北播消防協議会

平成二七年七月一二日(日)午前八時から、三木市吉川町の吉川総合公園グラウンドに北播磨地区五市一町の消防団員二二〇名が集い、『北播消防ソフトボール大会』が北播消防協議会の主催で開催されました。

この大会は、北播磨地区の消防団員がソフトボールを通

じて親睦を深め、広域災害時の連携強化を図ることを目的に、昭和五四年から操法大会のない年に隔年で実施し、本年で一八回目を迎えました。

午前八時、中西北播消防協議会会長と開催地の敷本三木市長が観閲台に登壇され、総指揮者の植山多可支部長の「分列に前へ進め」の号令



開会式(中西会長あいさつ)



試合の様子

で、西脇・三木・小野・加西・加東・多可支部の順でそれぞれの団を代表する選手が皆さんが堂々と部隊行進しました。開会式で前回優勝の小野支部、準優勝の三木支部から優勝杯・準優勝盾の返還が行われ、今年ほどのチームが優勝杯を獲得するか決戦の火ぶたが切って落とされました。

試合は、日本ソフトボール協会のオフィシャルルールにのっとり、三木市ソフトボール協会の皆さんに審判をお願いし、北播消防協議会チーム(このチームは五市一町からそれぞれ選抜された副団長で構成)を加えた七チームでトーナメント方式で行いました。八時四五分第一試合A

コート敷本三木市長、Bコート加岳井三木市議会議長がそれぞれ始球式を行いプレーボール。

親睦という名のもとに「和気あいあい」の中にも、やはり市町の代表というプライドをかけた好プレー、場外ホームラン、珍プレーなど白熱したプレーが続出。そのたびに相手チームからも拍手喝采の試合展開でした。

中でも、第二試合に登場した北播消防協議会チームは、大会当日ぶっつけ本番でチーム結成されたにもかかわらず、イニングを追うごとにチームワークが育ち、三位決定戦に進出。結果は、炎天下に加え三試合連続出場で惜しくも第四位でしたが、さすが副団長さん達です。見知らぬ皆さんが消防団という名の下で結成されれば所属は違えども志を同じくする消防団員、息もピッタリです。多くの団員を束ねる幹部の意気込みと、災害時に重要な組織力や機動力を垣間見ることができ、消防団ここにありと言った力強さを感じた一瞬でした。また、対戦相手の西脇支部の選手の方々が守備応援をする場面もあり、名実ともに素晴らしい親睦行事となりました。

一四時にすべての試合が終わり、閉会式を行い無事大会を終了しました。

- 大会結果**
- 優勝 小野支部 (二大会連続優勝)
  - 準優勝 三木支部
  - 第三位 西脇支部



連続優勝された小野支部のみなさん

消火活動はもちろんですが、梅雨末期の集中豪雨や台風の影響。いつ発生するか危惧される南海地震や山崎断層帯地震など、災害への備えを固く誓って帰路につきました。

北播消防協議会について 昭和三〇年に北播磨地区の各市・郡の消防協会が、消防諸活動の向上発展に寄与すること、広域的な連携をはかりスムーズな団運営を行うことを目的に集まり、北播消防協議会が発足しました。

構成市町は、西脇市・三木市・小野市・加西市・加東市・多可町(五市一町) 主な活動は、隔年実施の操法大会とソフトボール大会、若手消防団員意見交換会、団幹部の交流などの諸行事を通じ団活動の強化を図っています。



## 消防団協力事業所への総務大臣感謝状贈呈式と 総務大臣と「消防団協力事業所・経済団体」との意見交換会の開催

### 消防庁

消防庁は平成二七年九月八日(火)、平成二六年度更新の総務省消防庁消防団協力事業所(対象・三三一団体)のうち、従業員が消防団に多数加入している五事業所を対象として総務大臣感謝状を贈呈し、併せて総務大臣と消防団協力事業所・経済団体との意見交換会をホテル ルポール 麹町(東京都)で開催しました。

総務大臣感謝状が贈呈された五事業所のうち、兵庫県内の事業所は次の二事業所です。

- 株式会社デービー精工 (姫路市)
- 三洋エナジー南淡株式会社 (南あわじ市)

### 意見交換会参加経済団体

- 一般社団法人 日本経済団体連合会
- 日本商工会議所
- 公益社団法人 経済同友会
- 全国商工会連合会
- 全国中小企業団体中央会



消防団協力事業所 表示マーク





# 消防団。ピックアップ

## 『消防団は地域の防災リーダー』

### 姫路市家島町消防団

静かな波とともにたたずむ風景が、まさに瀬戸内の海が作り出した自然の造形美ともいえる家島諸島は、姫路港から南西一八キロメートル（定期船で約二五分）を隔てた瀬戸内海播磨灘の沖合い中央に位置し、有人である家島、坊勢島、男鹿島、西島の四島を中心とする大小四〇余りの島々による家島群島全域を持つて形成されています。

平成一八年に姫路市に編入され、現在約六、〇〇〇人が生活しています。

家島町消防団は、四分団、一七〇名で組織されています。島民の安全・安心を守るため、平時は、地域の防災リーダーとして島民の防火・防災意識の啓発や訓練指導、火災予防や警備警戒活動を、そして、災害時には救出救助、避難誘導、災害防ぎよ活動を実施しています。



毎年二回、自主防災会対象に行う消火栓を使用した初期消火訓練では大勢の地域の方が参加されます。

参加者の多くは女性です。これは、男性が不在の日中に女性のみでも迅速的確に初期消火を行う事ができるように、という思いの現れです。

「島民一人ひとりが先人の教えを受け継ぎ、いかなる災害からも島を守ってきた」という考えが、今もこの島の人びとに受け継がれています。

また、各分団では毎週、機械器具点検や資器材取扱い訓練を実施しています。特に離島である家島町は、水利の不備から海水を使用する消火活動を行うこともあり、小型動力ポンプの点検、使用後のメンテナンス等、故障や不具合等ないよう機械器具等の適正な維持管理に努めています。

ソフト面では、島特有の地形による狭隘な道路、急傾斜地といった活動困難な場所において、急勾配の坂道や何百段も有る石段を駆け上がりながらのホース延長を行うなど、実践に即した活動訓練を繰り返し行っています。

さらに、平成二七年度は消防団員教育訓練として、隔年で行われている応急手当指導員養成講習を受講しました。これは、二四時間のカリキュラムになっており、団員は、



忙しい仕事の合間を縫って真剣に取り組み、新たに六名の応急手当指導員が誕生しました。この指導員を含め、今後島民への応急手当の普及啓発も行っています。

平成二三年度から家島・坊勢島に消防出張所が配置され、救急業務を主体とする常備消防体制がスタートしました。これを受け、団員も救急隊員と合同で救急艇やドクターヘリへの患者の引き渡し訓練を繰り返し行っています。

災害時に島外からの早急な応援が望めないという離島独特の状況において、先人の教えを胸に島民一人ひとりの防火防災意識を高めつつ、常備消防との協力体制をより強化していきます。

そして、今後も「消防団は地域の防災リーダー」をスローガンに、地域防災の核となり、自分たちの島は自分たちで守るため、さらなる研修及び訓練を重ね、島民の負託に応えることができるよう努めてまいります。



## 『中学生・地域・消防団の交流事業(スクラムハート事業)』

### 多可町消防団

多可町は、兵庫県の内陸部に位置し、東西一三キロメートル、南北二七キロメートル、総面積一八五・一九平方キロメートルを有し、人口二二、〇〇〇余人の、周囲を中国山地の山々に囲まれた自然豊かな町です。

多可町消防団は、平成一七年一月の町合併により三つの団が合併して誕生しました。現在では一二分団五九部を有し、団員は本年四月一日現在で一〇八二名が在籍しています。常備消防組織が充分とは言えない当町では、消防団員が住民の生命・財産は自分たちで守るといふ強い意識のもと日々の活動を行っています。ただ、当消防団でも少子高齢化に加え団員の通勤先の遠方化等により年々団員数が減っており、特に昼間団員の確保が急務の課題となっています。



土のうづくりのお手本を見せる消防団員

年度から始まった中学生と地域コミュニティ、消防団の交流事業は、中学生が防災や消防団活動を体験的に学び、地域防災の一員となれるように防災意識を高めることを目的としています。

特に昼間において、消防団員を含め多くの大人が仕事等で町外へ出てしまう現状があります。この活動を通じて中学生にも可能な範囲で活動を行う意識を少しでも持つてもらい、また、体験的に学ぶことで地域防災の一員となり、将来的に消防団活動や自主防災活動に協力・参加できる人材への育成を目指しています。

しかし、開始当初ほどのように交流事業を進めていったらいいのか、消防団としても試行錯誤の繰り返しでした。本当に中学生にとって有益な事業なのか、もっと他にやり方はないのかと議論を重ねました。ただ、やはり消防団として活動していることを理解して欲しいなかで、基本となる機械器具の取扱い(消火器(栓)、ポンプ点検等)を中心に説明、体験を数年間実施しました。

また、台風により多くの被害を出した平成二三年には、



土のうづくり

当時の団長が消防団活動の現状や火災・水害等の体験談を講話し、平常時からの備えを含めた防災に対する認識を深めました。その後も町防災訓練、集落単位での防災訓練への参加等、避難所や危険箇所の確認、土のう作り、車いす等を使った要支援者の避難補助等地域コミュニティを深めながら事業を進めています。

今年度は、平成二七年八月三〇日に町内の中学校を会場とし、避難訓練、ポランティア受入訓練、水防訓練を全生徒対象が体験します。これは、町の防災訓練が実施されるなかで、スクラムハート事業の趣旨も含めて実施します。中学生のみならずには各種訓練、兵庫県防災士会、震災・学校支援チーム(EARTH)の方々の防災講話といった様々な体験を通じ防災についての認識を深めてもらえる場として考えています。

当事業開始から今年で九年目を迎え、当時中学生でスクラムハート事業に参加された経験を持つ団員もいます。今後も、地域コミュニティ、消防団の連携強化を図りながら地域の防災力強化を図ってまいります。



わが町の団長さん

「郷土愛」

姫路市姫路東消防団

奥見 正



姫路市姫路東消防団は、世界遺産「姫路城」を初めとする文化施設、JR姫路駅周辺の商業施設、繁華街、住宅密集地など多様な都市構成が形

成される姫路市の中心部を管轄する消防団として、昭和四四年発足以来、一本部二〇分団、団員数六九五名で組織されています。奥見団長は、平成二六年九月より、第九代目の団長に就任されました。お仕事は、大工業を営まれ、自営業という強みに加え、奥様の内助の功、そしてご家族の絶大な協力を得られ、地元では交通安全委員や防犯委員にも従事され、いつ何時でも明るく人を和まし笑いに変わるその力も加わり、地元に着した消防団活動を展開されておられます。

普段は、目に入れても痛くないと言ふ可愛いお孫さん三人に慕われている「優しいおじいちゃん」ですが、ひとたび火災が発生すると火災現場に駆けつけ、最前線で陣頭指揮を執る「アツい」団長に変身します。今後の消防団活動における抱負をお聞きすると、地域の防火防災の分野だけでなく、地域行事に積極的に参加し、今後も住民から信



頼まれる消防団を目指してきたいと考えておられます。消防に対する情熱と持ち前の統率力・行動力で姫路市姫路東消防団の先頭に立ち活動していく奥見団長にご期待ください。

われら若手消防団員

～消防団に入団して～

洲本市消防団 物部分団

玉井 敬雅



私が洲本市消防団に入団したのは昨年の四月、きっかけは偶然からでした。立ち飲み屋で隣席した初対面のおじさんとの会話のなかで、その人が地元消防団の分団長であること、私の父親がかつて分団員だった時に一緒に活動していたことを知りました。そして話ははずみ、それでは君も消防団に、ということが入団の運びとなりました。入団後、いろいろなことを経験しました。操法大会、年末警戒、出初め式などの消防行事に加え、台風の際、地元のお祭りの警備といった、地域に根ざした多岐にわたる活動を通じて、消防団に対するイメージが「火事の際に消火を手伝う人たち」といったものから、「地域を陰でささえる、緑の下の力持ち」に変化しました。不思議な縁がきっかけで入団して

一年、幸いにも出動しなればならないような火災等はなく、実際に消火活動を行ったことはありません。技術的にもまだまだ未熟であり、学ぶ事ばかりであると感じます。来年にはまた操法大会が行われ、私も出場する予定です。大会に向けての練習や、普段の活動を通じて、経験を積み、技術を磨き、自分を育ててくれたこの地域に何か返せるように、日々精進していきたいと思えます。



がんばってます、女性消防団員

『楽しく踊って啓発活動!』

丹波市消防団 女性消防分団

丹波市消防団は団員総数一六九四名で、そのうち女性消防団員は現在八名で編成しております。主に火災予防啓発や救命講習等の活動をしており、毎月一日の夜間警戒活動を行い火災予防の声を届けています。また、地域の会議や総会等の場に参加し、「火災予防啓発劇」なるものを披露し笑いの渦の中、火災予防を周知いただいております。

消防署と連携し、救命講習会では、地域や各団体を対象に老若男女を問わず、多くの方々に向け救命講習インストラクターとして講師指導にあたりたいと思えます。

丹波市音頭で救急法、救命救急インストラクターのかたわら、ご当地ソングでもある「丹波市音頭」に合わせ市民の皆さんに救急法を楽しく身に付けていただければ。オリジナルの振付で楽しく踊って啓発しています。

最近市内の行事イベントでも引っぱりだこになっています。また、一〇月の第二一回全国女性消防団員活性化佐賀大会情報交流会「お国自慢!のど自慢大会」でも近畿ブロックを代表して「丹波市音頭で救急法」を掲げ出場いたしますので応援の程、宜しくお願いします。



地域安全丹波のつどい



# 地域のお知らせ

## 朝来市

### 雲海シーズン到来！天空の城があなたの御来城をお待ちしています

#### 【全国屈指の山城遺構 国史跡竹田城跡】

標高三五三・七メートルの古城山山頂にそびえる竹田城跡（朝来市）。

竹田城跡は、山城遺跡として全国でもまれな完存する石垣遺構であり、虎が臥せているように見えることから「虎臥城（とらふすじょう・こがじょう）」とも呼ばれていました。



天空の城 竹田城跡

最後の城主・赤松広秀が豪壮な石積みの城郭を整備したと言われます。

日の早朝、冷え込んで気温が下がった時に朝霧が発生することがあり、但馬地方の風物詩となっています。この雲海に包まれた姿や竹田城から見える風景は、まさに天空に下ろす風景を思わせ、いつの間にか「天空の城」・「日本のマチュピチュ」とも呼ばれるようになりました。この幻想的な風景を一目見ようとたくさんの人々が訪れます。

平成二四年には竹田城跡が「恋人の聖地」として認定を受けました。恋人の聖地にあやかろうと、若いカップルたちも多く訪れています。

城下町には資料館やレストラン、土産物屋等も点在しており、多くの人が足を止め、城跡の魅力を感じています。

九月一九日からはいよいよ雲海シーズンが到来し、早朝からの入城が可能となります。皆様の御来城を心からお待ちしております。

※竹田城跡観覧料

個人  
大人（高校生以上）… 五〇〇円  
中学生以下… 無料

※年間パスポート  
一、〇〇〇円  
中学生以下… 無料  
団体（二〇人以上）… 四五〇円  
大人（高校生以上）… 四五〇円  
中学生以下… 無料

※入城時間  
午前四時～午後五時まで  
詳細は朝来市のホームページを御確認ください。

#### 【桜花絢爛の景勝渓谷 立雲峡】

海抜七五七メートルの朝来山中腹にあり、竹田城の対面に位置します。

無数の奇石・巨岩が点在するなか、樹齢三〇〇年以上と言われる老桜が自然美の妙をきわめて群生しています。

開花期の長いのも特徴のひとつで、前面の竹田城跡、



立雲峡 山桜

眼下の町並みと併せ、北近畿一の桜の名所のひとつです。

公園として整備され、一年中四季折々の美しい景色の中で、竹田城跡をご覧いただけます。

## 丹(まづしろ)の里

## 丹波市

## 丹波市

平成一六年一月一日に、旧水上郡六町（柏原町・氷上町・青垣町・春日町・山南町・市島町）が合併し、丹波市は誕生しました。

丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、市内西部を南北に日本標準時子午線（東経一三五度線）が通っており、北東では京都府、南東では篠山市、南西では多可町、南では西脇市、北西では朝来市と境を接しています。

阪神間からJRや自動車ですぐにアクセスできる丹波市は、約一時間三〇分から二時間圏域であり、市内の南部地域は阪神都市圏との係わりが比較的深く、一方、北部地域は隣接する京都府等との係わりが比較的強くなっています。

地形は、本州の骨格のひとつを構成する中国山地の東端に位置し、粟鹿山（標高九六二メートル）をはじめ、急斜面をもった山々によって形作られた中山間地域となつています。その山々の接点を縫うよ

うにして二大河川の源流が走っています。一つは瀬戸内海へ注ぐ加古川とその上流河川であり、もう一つは日本海へ注ぐ由良川の上流河川（黒井川、竹田川）となつています。

特に石生の「水分れ」は海抜九五mに位置し、本州一低い中央分水界となつています。気候は瀬戸内海型、内陸型気候に属し、年間、昼夜間の寒暖差が激しく、秋から冬にかけて発生する丹波地域の山々をつつむ朝霧、夕霧は「丹波霧」と呼ばれ、豊かな自然環境に一層の深みと神秘さを醸しだしています。

市の南端に位置する篠山層群（約一億数千万年前の白亜紀前期の地層）では、平成一八年八月、市内の二人の地学愛好家によって恐竜化石が発見され、「丹波竜」と命名されました。現在、県立人と自然の博物館による化石発掘作業が進められています。



「丹波市復興1年 前夜祭 Light up TAMBA」

くアクセスがますます便利に！

舞鶴若狭自動車道とこれに接続する北近畿豊岡自動車道が広域的な幹線道路の役割を担っています。舞鶴若狭自動車道には、春日ICがあり、北部では福知山IC、南部では丹南篠山口ICへのアクセスが可能。また、北近畿豊岡自動車道には、水上ICと青垣ICの二箇所が設置されています。市内から京阪神圏域へは、舞鶴若狭自動車道及びこれに接続する中国自動車道を利用して約一時間三〇分、舞鶴港へは約一時間と、広域の交通アクセスは非常に便利です。また、市内を通る国道一七五号、一七六号、四二七号、四二九号は、幹線道路として舞鶴若狭自動車道と北近畿豊岡自動車道を補完する役割を担っています。特に、明石・加古川・姫路方面には、地域高規格道路である東播丹波連絡道路の整備が計画されており、さらにアクセスが便利になります。鉄道は、JR福知山線が南北に走り、谷川駅でJR加古川線と接続しています。市内には、JR福知山線、JR加古川線あわせて八駅が存在し、JR大阪駅までの所要時間は、柏原駅及び谷川駅から特急車で約一時間一〇分程度と、比較的短時間で移動が可能です。

丹波市豪雨災害から一年を迎えて丹波市豪雨災害から一年を迎えて迎えました。昨年八月一六日から一七日にかけて降り続いた豪雨は、二十四時間雨量四一四ミリメートルを記録し、市内各所がかつてない甚大な被害をもたらしました。この災害により、不幸にも死傷者が発生したことが悔やまれるところ。また、この難局に對して市内はもとより、全国各地から延べ一八、四三〇人を超えるボランティアの方々や義援金など大変温かく心強いご支援をいただきましたことにあらためまして感謝申し上げます。

さて、市では豪雨災害からの復旧・復興を早急かつ円滑に進めること、市民の安全・安心の確保や経済活動の回復が大きな課題となりました。このため、平成二七年三月には、五一の先導的事業を盛り込んだ丹波市復興プランを策定し、現在取り組んでいます。

### 編集後記

朝夕と涼しくなり、過ごしやすくなってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、第二二回全国女性消防操法大会に向けて南あわじ市消防団などで分団の皆様の意気込みを掲載しております。兵庫県代表として出場されることはプレッシャーもあるかと思いますが、自分を信じ、仲間を信じて、日頃の訓練の成果を発揮することができるようお祈り申し上げます。

また、八月三〇日（日）には兵庫県と地域の市町が共催した合同防災訓練を実施しました。具体的な訓練内容、当日の写真を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。台風シーズンが到来し、消防団員の皆様が出動する機会が増えると思われれます。活動時には自己の安全管理に努め、事故等にはくれぐれもご注意ください。

八月一二日には国道一七五号「八日市橋」の開通式が行われました。この橋は前山川の増水により崩落したもので、災害復旧のシンボリックな存在として位置づけられており、橋の開通は大きな喜びとなりました。

また八月二九日、三〇日には、「復興へ向け一年」心つなぐ2days（ツーデイズ）和一处（ワッショイ）と銘打ち、市民、支援者、関係団体などが一堂に会する感謝イベントを開催しました。復旧復興はまだまだ道半ばですが、「心つなぐ」をキーワードに、みなさまと力を合わせ力強く取り組んでまいりたいと考えております。

八月二二日には国道一七五号「八日市橋」の開通式が行われました。この橋は前山川の増水により崩落したもので、災害復旧のシンボリックな存在として位置づけられており、橋の開通は大きな喜びとなりました。

また八月二九日、三〇日には、「復興へ向け一年」心つなぐ2days（ツーデイズ）和一处（ワッショイ）と銘打ち、市民、支援者、関係団体などが一堂に会する感謝イベントを開催しました。復旧復興はまだまだ道半ばですが、「心つなぐ」をキーワードに、みなさまと力を合わせ力強く取り組んでまいりたいと考えております。



和一处（ワッショイ）テーブルトーク